

立命館守山中学校・高等学校 2017年度 学校目標 目標シート

教育目標	21世紀社会において果敢に挑戦し行動する「豊かな教養と科学的思考力と高い語学力、人間力を備えたサイエンスグローバルリーダー」の育成。 ①解決できる人：複雑に交錯する現象から課題を設定し解決できる人。 ②貢献できる人：人間や社会の営みを深く理解し、世の中に貢献できる人。 ③学び続ける人：豊富な知識・情念を駆使して判断する思考力を持った人。 ④自由と清新を愛する人：既存の概念にとらわれずに果敢に挑戦する人。 ⑤協力・協働できる人：多様性を受け入れ、尊重し活用していける人。		中期目標	①確かな学力と主体的学習者の育成：豊かな教養と確かな学力を身に付け、主体的に学び考える姿勢を備えた生徒の育成。 ②豊かな人間性や社会性の育成：自分を律する心を養い、自らの人生をより豊かにし、人の役に立ちたいと思う人間の育成。 ③サイエンスグローバルリーダーとしての資質の育成：高い語学力と論理的な思考力、発信力を備え、失敗を恐れず問題解決に挑戦できる生徒の育成。 ④教員としての資質と授業力の向上を常に目指す教職員集団の育成：向上心を持って自己研鑽に努め、協働のもと新しい学校作りを目指す教職員集団の形成。 ⑤地域や社会から信頼される学校作りと生徒募集展開：魅力ある教育を支える指導体制や生徒が安心・快適に学ぶことができる学習環境の整備と地域社会から信頼される学校ブランドの確立と生徒募集展開の強化。			
	区分	A. 課題（上位目標）		B. 目標（中位目標）	C. 達成目標（当年度目標）	D. 自己評価	E. 具体的施策（どのような方法で）
教学課題	I	確かな学力と主体的学習者の育成	1	計画的な学習指導の確立	(1) ①学力の到達目標設定と年間計画に基づく指導体制の強化。 ②大学から求められる基礎・基本学力の保障。	4	ICTによる学習スタイルの転換と家庭学習時間の増進を各学年で実施。具体的には、活用履歴の点検＝毎週、アンケート＝学期毎、小テスト＝随時、到達度確認テスト＝年3回以上。
			2	能動的で系統的な指導の展開	(2) ①中高6年・大学接続を意識した教育計画の研究と実践。 ②予習・授業・確認の学習サイクル定着と授業理解力の向上。	4	①カリキュラム委員会をベースに、6年一貫教育の学力向上と学習サイクルの道筋を明確にした各教科シラバスの作成を行う。②学習支援アプリを活用した学習履歴を毎朝記入する。
			3	特色ある教育プログラムの発展	(3) ①高校コースプログラムのあり方に対する具体策の検討。 ②各コースにおける教育内容を確実な実行と進路に応じた専門性の進化。	4	①カリキュラム委員会をベースに、高校2年生からのアドバンスコース（理系・グローバル）の設置に向けたカリキュラムを上半期をめどに策定する。②カリキュラム委員会でさらに研究整理し、2018年度より開始。
			4	ICT機器を活用した学びの質的転換	(4) ①ICT機器の効果的活用と検証、生徒の主体的・協同的な学びの展開。 ②情報リテラシー指導による適切な情報収集・判断能力の育成。	4	ICTの積極的な活用とClassi運用の環境整備と研修による活用促進。 ①Classiなどの授業支援アプリ活用による発展的展開として、中学校でのICT機器活用授業50％以上。②高校ICT機器活用授業30％以上。
			5	キャリア教育の充実	(5) ①大学や社会のネットワークを活用した進路支援教育の推進。 ②学部スペシャリストを軸とした大学接続教育の質的向上。	3	①研究開発部キャリア教育パートによる本校の6年一貫キャリア教育の確立を確定する。②BKC学部との連携を促進する。
	II	豊かな人間性や社会性の育成	1	社会的マナーの涵養と生徒主体の行事運営	(1) ①挨拶の励行と時間厳守、環境美化など生きる力の育成。 ②規範意識を高める指導による人間関係形成・社会的形成能力の育成。 ③学校生活を安心安全に過ごせる環境作り。	3	①生徒会委員会（美化・風紀・環境）を中心に生徒の取り組みによる挨拶運動やバス乗降者マナー指導や美化指導の推進を行う。②中学でのアセンブリや高校HRなどでの人間形成を図る講話を行う。
			2	課外活動での生徒育成	(2) ①生徒会活動・学校行事などを通した自主・奉仕・協調精神の涵養。 ②部活動単位の学習指導による学習と部活動の両立。ノー部活デーの設定と学習活動の促進。	3	①生徒会執行部との定期懇談会を通じて、生徒の自主的奉仕の協調的な活動を促進する。②文武両立を目指し、合理的な部活動の追求と学習活動の保障を行う。 ③週1回程度のノー部活デーの設定を追求する。
			3	人権意識の涵養	(3) ①教育活動全体を通じた人権教育の充実 ②自他を尊重し、いじめを決して許さない意識や態度の醸成	4	①総務部を中心にした人権教育推進体制を確立し、LHRなどを通じた6年間の本校人権教育体制を確立する。 ②いじめ小委員会の定期開催により、いじめの早期発見に努める。
	III	サイエンスグローバルリーダーとしての資質の育成	1	留学プログラムの充実	(1) ①優秀な留学生の受け入れと交流事業の推進。 ②留学派遣プログラムの質的向上と新規開発。	4	①研究開発グローバル教育部を中心に、留学プログラムの質的向上と新規プログラムを開発する。 ②新規開発のために新たな海外提携校を模索する。
			2	SSH第3期の獲得と理系進学促進	(2) ①SSH第3期獲得と新カリキュラム検討による高度なサイエンスグローバルリーダーの育成。 ②理系学部進学50％以上とグローバル系進学15％を目指す。	4	①カリキュラム委員会をベースに、高校2年生からAd理系クラスやグローバルクラスの設置。②サイテック部やESS部などの課外活動と連携したサイエンスグローバルリーダーを育成する取り組みを実施する。③BKC学生団体との定期的な共同事業を通じたBKC理系学部への進学促進を図る。
			3	高い語学運用力の育成	(3) ①高い語学力を育成する指導システムや活動の確立。 ②安全な海外研修旅行の実施と新規入札の実施。	4	①研究開発グローバル教育部を中心に、6年間の高い英語運用能力を形成させるプログラムを開発する。 ②海外研修委員会による高校海外研修の見直しを行い、2018年度から変更実施する。
	管理運営課題	I	教員としての資質と授業力の向上を常に目指す教職員集団の確立	1	学校教育力の向上	(1) ①全教職員自らを高める努力と創意ある教育実践の積極的展開。 ②校務分掌の円滑な運営と、調和と統一のある教育活動の推進。	4
2				情報の共有と連携強化	(2) ①チームワーク・ネットワーク・フットワークを重視し、教員間の情報共有が活発な集団を目指す。 ②生徒情報の共有ルールの具体化を図る。	4	①学年会議・分掌会議の定例的な開催により、全教員が一致した教育活動ができるような体制を図る。 ②学年主任会での生徒情報交換を行い、必要な生徒情報の共有を実施する。
3				ステークホルダーからの信頼の獲得	(3) ①保護者アンケート・授業評価アンケートの数値向上を図る。（保護者アンケート：本校への満足度90％以上、授業評価アンケートの得点率80％以上） ②公開授業研究会の開催により教育到達点の検証と成果の発信を行う。	4	①各学年・教科・分掌活動の改善と成果検証と発信力を高める。 ②HP更新回数年間300回以上。 ③公開授業週間の発信。
II		地域社会から信頼される学校作りと生徒募集（本校のブランド力向上）	1	入学者定員の安定的確保	(1) ①募集定員の確保、特に、本校を第一志望とする高いレベルの推薦と専願者の安定的確保。（中学：かがやき100名・IF20名・前期一般30名・後期一般10名 高校：推薦100名・専願40名・併願20名） ②募集PR活動の研究と教職員協同による生徒募集活動展開。	3	①中学入試は、FSC実績を前面に出し塾訪問を強化する。 ②高校入試は、中学校訪問を丁寧に3回以上実施。信頼関係を構築する。 ③中学校へのFSC実績を打ち出し、奨学金制度の活用を促進する。 ④スポーツ推薦やクラブ推薦は、成績だけでなく人物面も見極め、質の高いレベルの生徒募集を実施する。
			2	保護者との連携	(2) ①保護者会・同窓会・教育振興会との連携と協力体制の強化。 ②懇談会や説明会の開催による学校教育への理解促進。	3	①PTAは、保護者会へ移行への検討をPTA役員とともに進める。 ②PTA役員会へ恒常的に出席をし、冒頭の10分程度で意見交換を実施する場を設定する。③教育振興会の特別教育予算の検討を行う。
			3	地域・社会との連携	(3) ①地域行事への積極的参加・協力の促進、地域活性化への貢献。 ②ホームページの充実により地域への広報活動を推進する。（HP更新回数年間300回以上を目指す。）	4	①守山市や滋賀県のイベントへ積極的に参加し、本校教育の成果の社会的発信をし社会的信頼を強固にする。 ②学年・分掌・教科・クラブでのイベントを適宜発信し、本校の教育活動の発信に努める。
			4	学習指導・指導体制の充実	(4) ①教室の情報基盤整備による多様な学びの実現。	4	①メディア教育部を中心に、HRデジタル化整備計画を確実に進捗させる。 ②ICT教育推進委員会による教育環境の検討と実践を強化する。
			5	安心安全な学校作り	(5) ①防災や情報管理に対するマネジメント力の強化。 ②生徒カウンセリング・ハラスメント・人権などの研修会の開催強化。	3	①年間2回の避難訓練のうち、1回は予告なしの「抜き打ち」訓練とし、教員がマニュアルに準拠した行動が出来ているかどうかの点検をする。 ②コンサルテーションを利用したカウンセリング研修やハラスメント、人権などの研修を年間1回以上実施する。
			6	食育推進・ユネスコスクール事業を通じた生徒育成と本校教育の特色化推進	(6) ①スポーツ健康科学部やJAなどの地域社会と連携した食育推進事業を継続的に実施する。 ②国際貢献や国際理解教育を通したユネスコスクール推進事業を実施する。	3	①食育推進：家庭科・保健科・スポーツ健康科学部・中学校・生協・JA近江と連携した食育事業を年1回実施し、本校の食育から生徒の学校生活を援助する。 ②学校設定講座「国際協力」を通じた国際理解・国際貢献教育を行い、地球市民として活躍する国際人としての素養を育成する。
			7	将来構想の具体化	(7) ①将来構想委員会の発足と議論の推進。 ②SSH再指定に向けた業務作業の推進。	3	①学園で設置予定の守山将来構想委員会につながる将来構想準備委員会で、広く意見交換を行いながら、教職員の本校教育への参画意識を高める。②研究開発部やカリキュラム委員会と連携したSSH第3期申請に向けた検討を開始する。
達成状況		①「確かな学力と主体的学習者の育成」では、月2回のカリキュラム委員会をベースに新カリキュラムを確定。2018年度中高新入生より年次的に新カリキュラムへ移行していく。ICT活用教育では、単元や素材に応じて、ほぼ全ての教科で活用している。高校3年グローバルクラスでは、ほぼ全員の生徒の4技能が向上していることがG-TECH等による外部評価でも示されている。 ②「豊かな人間性や社会性の育成」では、人権教育担当者を明確にし、本校の人権教育を推進した。週1回開催の学年主任会では「いじめ委員会」として、生徒情報交換や共有を実施。未然にいじめを防ぐことや対応を検討し、いじめのない豊かな人格を育む学校作りを心懸けた。 ③「サイエンスグローバルリーダーとしての資質の育成」では、研究開発部を中心に、意欲的にサイエンスの取組を前進させ、SSH3期目を獲得した。また、ワールド・ユース・ミートングなどを利用して、新たな提携校の開拓に取り組んだ。海外校や海外でのサイエンスの取組を通じて、海外への進学者を輩出した。 ④「教員としての資質と授業力の向上を常に目指す教職員集団の確立」では、公開授業週間だけではなく、英語科を始めとして自主的に授業公開と検討会を実施、教科授業力向上に努めた。 ⑤「地域社会から信頼される学校作りと生徒募集（本校のブランド力向上）」では、年2回の全国的なICT公開授業研究会を実施。全国から教育関係者200名規模で集め、また、年間約50校の視察があった。小学6年生が一時的に大きく減少する年であったが、結果的に中学は150名、高校は325名の入学者を迎えた。教育政策委員会をベースに、新しいカリキュラムを制定し、更なるブランド力の向上と発信を築いた。					
改善策		①キャリア教育は、分掌を再編しキャリア教育部として独立させ、本校のキャリア教育の体系を、大学との中高大連携や接続教育を進めていくことで専門的に検討していく。 ②本校のPTA活動の在り方を新役員会とともに検討していく。教育振興会特別予算の在り方については、幹事会の指摘を受け、クラブ補助の在り方など具体的な整理に着手する。 ③本校の将来構想については、2017年度に定例的に開催してきた教育政策委員会を中心としたカリキュラム議論と、学園R2030基本構想を踏まえた概要を作成する。学園を巻き込んだ将来構想委員会の起ち上げに向けて、校内での準備委員会を発足する。④生徒会との定期的な懇談会を通じて、生徒が自主的主体的な力を育てることができる取組や、質の高い学校文化の創造について考えていく場を設ける。					
委員会の構成			笠原健一（立命館大学理工学部長）、亀田晃巖（唯明寺住職）、田代弥三平（守山市教育長）、山田尚登（滋賀医科大学副学部長）、柴田秀明（立命館守山中学校・高等学校PTA会長）、前田啓好（立命館守山早苗会名誉会長）				
委員会開催日程と主な議題			第1回：6/23（金）10：30～12：00 ①参加者紹介 ②校長挨拶 ③授業見学 ④2017年度学校教育活動方針 第2回：2/23（金）10：30～12：00 ①参加者紹介 ②校長挨拶 ③2017年度教育活動総括概略 ④「Science Academic Presentation」の見学				
評価、改善事項			①本校の教育目標である21世紀社会において果敢に挑戦し行動する「豊かな教養と科学的思考力と高い語学力、人間力を備えたサイエンスグローバルリーダー」の育成、に対しては今後の世界情勢などを考えると、大変重要な目標であることが指摘された。②ICT活用については、今後の人材育成にとって、欠かせない視点であること、また、学習時間が伸びている、英語などの教科を中心に学力の向上感や高い到達感を生徒自身が実感していることに対する評価があった。③全般に「数値目標」を明記し、その達成に向けてどう取り組み、どのような結果を残したかという総括をすべきとの意見があった。				